



海と風と人が織り成す ゴルフ海道「夏泊ゴルフリンクス」

本誌主幹

犬中吉一

パームスプリングスのコース

世界で活躍する 日本人プロゴルファー

日本の女子プロゴルファーである

畑岡奈紗が4月24日、米ツアー「DIOインプラント・ロサンゼルス・オープン」で優勝いたしました。畑岡選手の米ツアーの初優勝は2018年の「ウォルマートNWアーカンソー選手権」。4年間で宮里藍選手に並ぶ6勝目を挙げ、今後の更なる活躍が期待されております。畑岡選手の「奈紗」と言う名前はアメリカ航空宇宙局「NASA」に由来するようで、「世界に羽ばたく子供になつて欲しい」というご両親の思いが込められたものだそうです。アメリカでも「名前を憶えやすい」と評判だと聞きました。

畑岡選手だけでなく、全英オープンで優勝した渋野日向子選手、昨年のオリンピックで銀メダルを獲得した稲見萌寧選手など女子選手が大活躍を見せ、さらに男子では2021年のマスターズでは松山英樹選手が優勝するなど、日本人のプロゴルファーが海外において大活躍を見せて

ています。かつては、欧米のトーナメントの優勝者に日本のプロゴルファーの名前が挙がるなど夢のようなお話でしたが、まさに隔世の感があります。

いよいよゴルフシーズンもたけなわとなり、さらに新しいスターが誕生することが期待されます。「神戸ゴルフ倶楽部」でスタートした日本のゴルフの歴史が、100年あまりの時を経て、ようやく海外で花開く時を迎えたのかと思うと、実に感慨深いものがあります。これからの欧米ツアーにおける日本選手の活躍に注目し、大いに応援していただければと思います。

日本のゴルフの至宝、 鍋木義成氏

さて、米ツアーといえば忘れてならない人物が1人おります。それはゴルフダイジェスト社の副社長を務められていた鍋木義成氏です。

ゴルフダイジェスト社時代にはアイデアマンとして「マスターズ」カレンダーやグリーン妖精と言われた「ローラ・ボー」のカレンダーな



パームスプリングス

どで大成功を収めた人物です。ゴルフはいくらでもやりますが、私はプロのトーナメントは観戦する気はなかったのですが、確か2000年だったと思いますが、楠木氏のお誘いで「マスターズ観戦ツアー」に誘っていただいたことがありました。楠木さんからの「私のツアーなのでぜひ参加しないか」とのお誘いをいただいたせいもあり、参加させていただくことにいたしました。

ロサンゼルス空港で集合し、早速向かったのがロサンゼルス郊外の「リビエラ・カントリー・クラブ」でした。「リビエラ・カントリー・クラブ」の渡邊舞会長とは旧知の間柄であり、待望のコースでのプレーを楽しみました。その後、米国西海岸のゴルフのメッカとも言えるパームスプリングスに向かいました。ここには、PGAツアー格式のコースが当時でも108ありました。現在ではおそらくもっと多いと思いますが、そこで午前36ホール、午後36ホールという夢のようなゴルフ三昧の4日間を過ごしたことは忘れることのできない思い出です。連日、朝の8時からスタートし、夕方6時までクラブを振り続けた夢のような体験でした。楠木氏は言うまでもなくゴルフへの造詣が深い方で、財界通信社が出版したアーノルド・パーマーの「わがゴルフ闘争記」という書籍においても、米国における版元のIMGとの交渉から装丁まで、多岐にわたるアドバイスを頂き、ひと方ならぬお

世話になったことを今でも覚えております。

「夏泊ゴルフリンクス」で交悠録を

この楠木氏は、ゴルフダイジェスト社を退任されたあと、青森県東津軽郡にある「夏泊ゴルフリンクス」の理事長に就任されました。

リンクスとは、海に近く、自然の

地形を利用した平坦で砂地の多いゴルフ場のことで、スコットランドでは、ゴルフコースそのものを「リンクス」と呼ぶそうです。青森県の夏泊半島は北緯41度に位置し、ゴルフ発祥の地とされるスコットランドの気候風土に酷似した場所であり、楠木氏は27ホールあった下のコースを18ホールに改修し、日本を代表するリンクスに作り上げました。

私も東京・大阪・名古屋・福岡から20人ほどの友人を動員し、この夏泊のコース

に10年間ほどツアーを敢行したことを今でも思い出します。

海と、風と、そして人が一体となる素晴らしい「夏泊ゴルフリンクス」。チャンスがあったら、ぜひ読者のみなさんも1度ここでプレーされてはいかがでしょうか。最もおすすめするシーズンは8〜10月です。ぜひ素晴らしいコースで素晴らしいゴルフ交悠録を重ねられることをお祈り申し上げます。



夏泊ゴルフリンクス